

目立たないけれど最先端。
グローバルニッチトップをめざす旭有機材です。



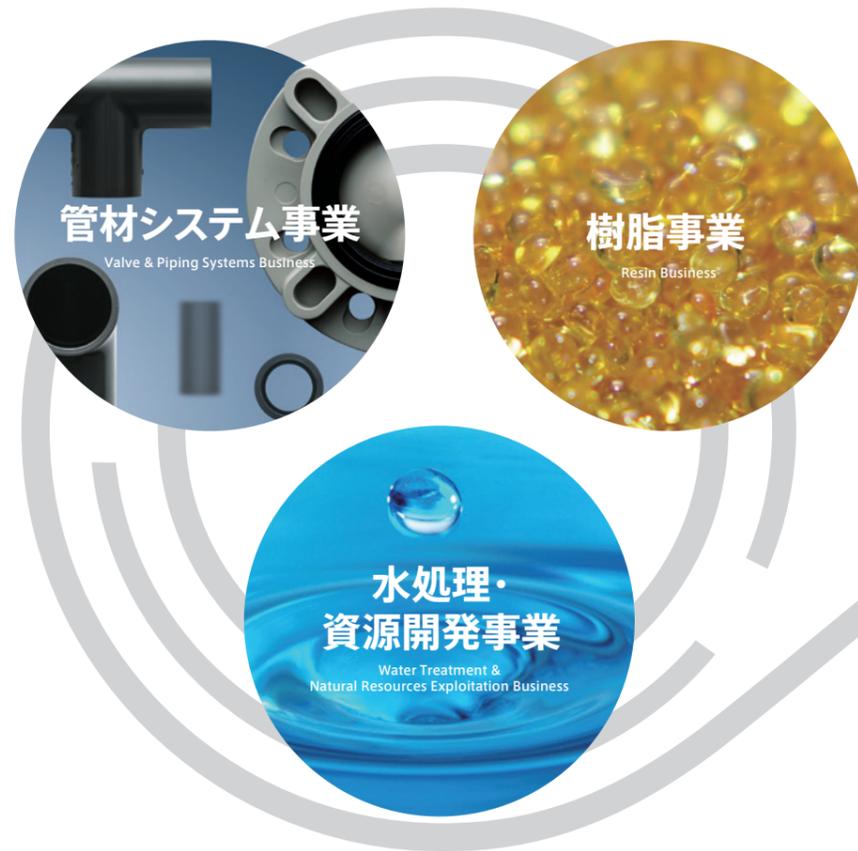
旭有機材株式会社

■東京本社/〒110-0005 東京都台東区上野3-24-6 上野フロンティアタワー21階
<http://www.asahi-yukizai.co.jp/>

18.05.T.3500



私たちの「3つの基幹事業」



お客様への「3つのお約束」



お客様への「3つのお約束」。 その思いが旭有機材ブランドの原動力です。

私たち旭有機材の存在意義とは何か。そして、私たちがお客様に提供できる最大の価値とは何なのでしょう。私たちはこの会社案内の中で、それを、私たちの「3つの基幹事業」と、お客様への「3つのお約束」という形で、表明していこうと思っています。

旭有機材は、1945年3月、不足する金属材料の代わりに木材で航空機部品を作る会社として誕生し、以来、「金属材料を有機材料（木やプラスチック）に変える」というDNAを核として、成長を続けてまいりました。現在では、世界初の樹脂製バルブから始まった「管材システム事業」、フェノール樹脂の重合・合成技術をコアテクノロジーとする「樹脂事業」、水資源と再生可能資源の可能性

を追求する「水処理・資源開発事業」の3つを基幹事業として、さまざまな分野でお客様にソリューションを提供しています。こうした成長を70年以上にわたって支えてきたものは、お客様に寄り添い、お困りごとを徹底的に解決するという、私たちの企業文化に他なりません。樹脂製バルブの創成期に、風呂敷に包んだバルブを抱えて煙突を探し、足元の工場に足を運んで、その良さを説いて回った、先達の時代から培われてきた伝統です。この伝統を源泉として、お客様に提供できる価値を具体的な形として示したものが、ソリューション力、技術・開発力、グローバル展開から成る「3つのお約束」です。

お客様のために私たちができること、これからできるようになることは、まだまだ広がっていくはず。3つのお約束に託した私たちの企業文化、お客様に寄り添い手を差し伸べるといふ思いは、いまも私たちの原動力として、3つの事業をけん引しています。「3つの基幹事業」と「3つのお約束」。これを両輪に、私たちはお客様のためのグローバルニッチトップ企業としてブランドを磨き、さらに卓越したソリューションを展開してまいります。

代表取締役社長 中野 賀津也





お困りごとを見過ごせない、 という伝統。

なによりも、親身にお客様と向き合うこと。 それが私たちの行動原理。

お客様のお困りごとを見過ごすことができない。それは創業以来持ち合わせている旭有機材の伝統といえるかもしれません。

私たちは積極的に製造現場に出向き、お客様が抱える問題点をお聞きしながら私たち自身の目でいち早くそれを確認し、処方設計を行います。70年以上にわたって積み重ねてきた樹脂に対する知見と技術を駆使し、さまざまな周辺技術と組み合わせて、問題解決に最適な一品一様の製品を開発します。そして、なによりも親身にお客様に向き合います。それが、旭有機材のソリューションです。

低臭気 RCS「ヘキサパス®」が、 作業環境と周辺環境の問題を解決。

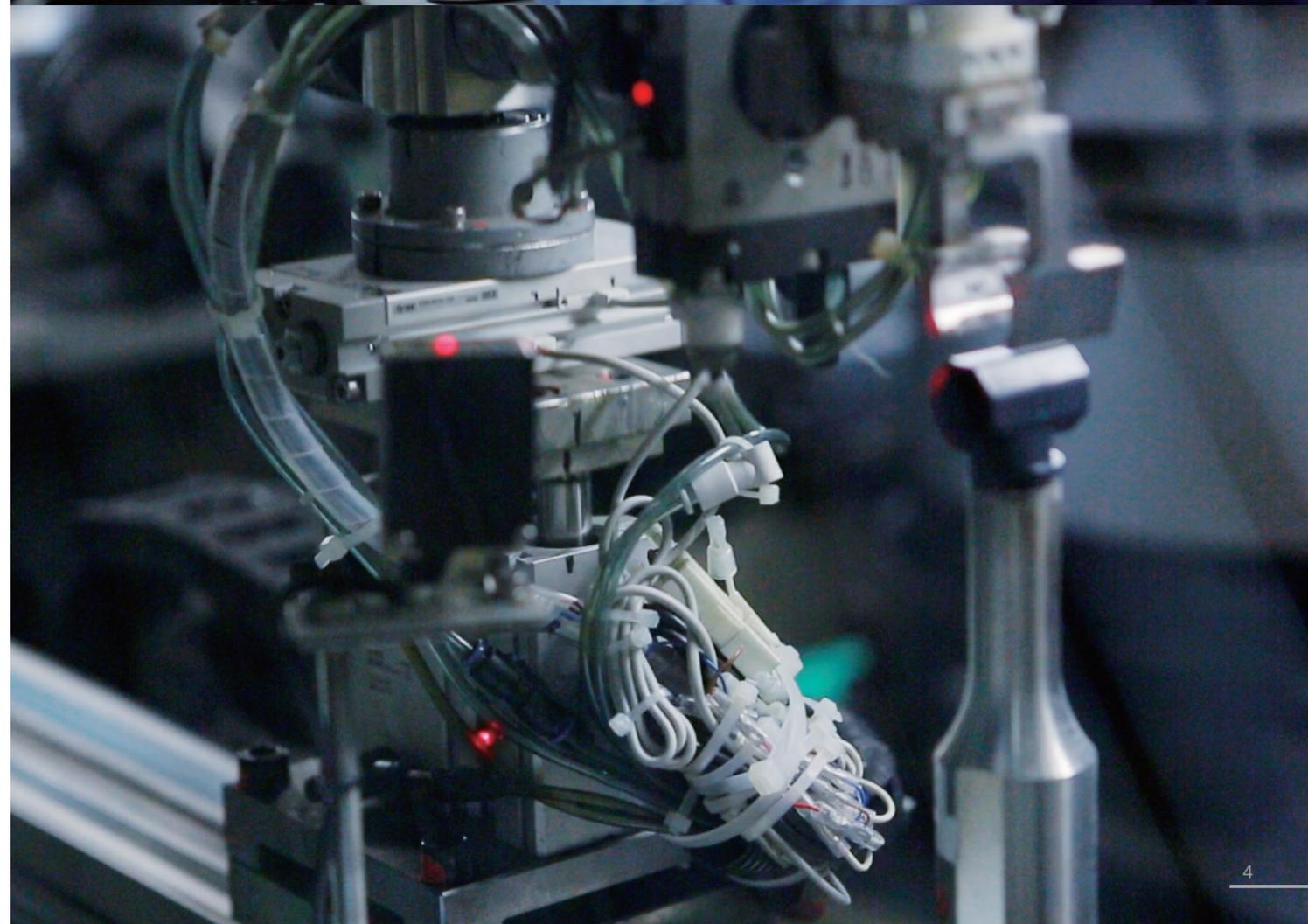
樹脂事業のソリューション事例をひとつご紹介します。主力製品である RCS (レジン・コーテッドサンド) は、鋳物を作る際の「鋳型」の材料になるものです。鋳型は RCS を 250℃ 以上の高温金型で焼成して作られますが、そのとき、硬化剤である「ヘキサミン」に由来する独特の臭気が発生します。アンモニア系の鼻を突く刺激臭で、

作業環境を悪化させ、工場周辺にお住まいの方々から苦情が寄せられることもありました。こうした事例が複数のお客様から寄せられていました。

ヘキサミンを使わず高品質・低コストの新たな RCS を作る開発プロジェクトがこうしてスタートしました。レジンを硬化促進剤をひとつひとつ検討して可能性を探り、製造方法もすべての工程を見直すなど、膨大な基礎検討を実施。「ヘキサミン」に頼らない硬化機構の開発に成功し、数年を要して低臭気 RCS 「ヘキサパス®」が完成しました。

製造現場で実際に「ヘキサパス®」をご使用いただいている工場の方からは「臭いが非常に良くなった。全然違う」「刺激臭が少ない。以前は目が痛いほどだったが、現在は顔を近くまで持っていい」「可視煙が少なく、煙の切れも早い」など多くの高評価をいただいています。

●
お客様ごとに最善のソリューションを提供すること。それが私たちのミッションであり、存在価値かもしれません。





技術の高さとは、愛の深さ。

素材をどれだけ熟知しているか。 その経験とノウハウが生み出すもの。

最善のソリューションを提供するためには、最適な商品を開発する高い技術力が必要です。高い技術とは何でしょうか。たとえば主力事業の管材システム事業で言えば、原料となる樹脂のことをどれだけ熟知しているか。樹脂はもともと錆や薬品に強く軽いという、管材に適した優れた特性を持っていますが、その一方で金属に比べて強度が低く、熱により金属よりも変形しやすい材料です。そうした性質を踏まえて、壊れず、漏れず、正確に機能する管材を作る。そのためには、サブミリ単位で設計を行うノウハウと、それを構造物として形にする熟練の技が欠かせません。言ってみれば技術の高さとは、商品や素材に対するノウハウや知見の深さ、あるいは愛情のようなものだ、私たちは考えています。「金属材料を有機材料に変える」という私たちの創業以来のDNAは、こうした技術力によって支えられてきました。

技術力によって、 新たな価値をお客様に提供する。

管材システム事業の事例としては、化学工場に納めたバタフライバルブ55IS型や、水族館で海水のラインに使用されたウエハーチェックバルブ、発電所に採用された大口径バタフライバルブなどが、技術力によるソリューションの好例です。いずれも錆による軸漏れや納期の長さなどの問題が起こっていましたが、私たちはそれぞれに適したバルブを開発し、金属では3ヵ月以上かかる納期を約1/3に短縮、さらに半年ごとに交換や修理が必要となっていた寿命を10年から20年という長さまで延ばすことができました。水処理・資源開発事業では、ドリコ株式会社が傾斜掘削技術と呼ばれる突出した技術を有しています。これは資源開発の際、3,000メートルもの地中深くを斜めに掘る技術で、掘削中に坑井の方位や傾斜を任意に変更して、地中の目的位置へ高い精度で掘削できるようになるというもの。減衰した既設の井戸を別のポイントに向けて掘削、再生させることも可能になります。

ソリューションとは、お客様に、これまで以上の価値を提供するもの。それは、高い技術力と愛情によってもたらされるものだ、旭有機材は思っています。





ソリューション世界化戦略。



アジアへ、中東へ、アフリカへ。 海外拠点、続々拡大中。

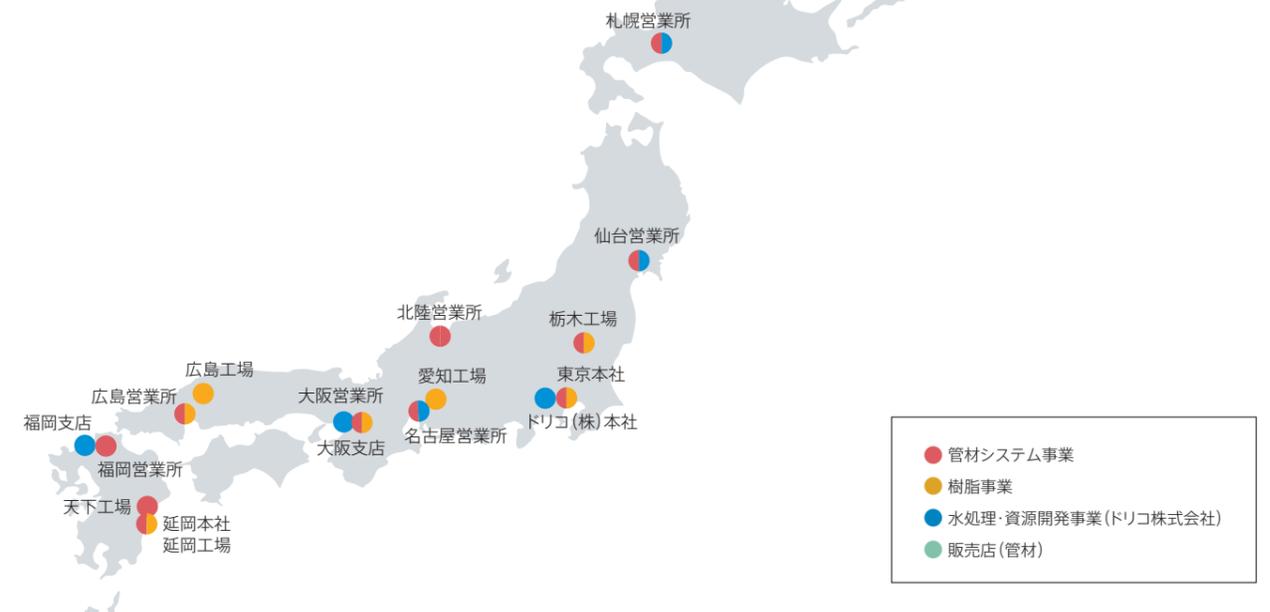
お客様に世界中のどこでも国内と変わらない高度なソリューションを提供するため、私たちはグローバルな活動を積極的に推し進めています。

管材システム事業の分野では、これまで国内の商社を通していたところを直販に切り替え、かつ海外駐在員を増員して、海外マーケットの情報や販売エリアの実態をしっかりと把握できる体制を作りました。また、延岡から世界50カ国以上に向けて直接輸出を行うなど、商流・物流改革にも積極的に取り組んでいます。さらに、中東やアフリカへの足がかりとして、サウジアラビアの海水淡水化プラントに大型バタフライバルブを納入し、新たなマーケット開拓を進めています。シンガポールには海外5拠点目となる

現地法人を設立しました。東南アジア全域におけるお客様のサポートを強化するとともに、販路拡大も進めています。

樹脂事業の分野では、自動車用部品などの鋳物製造に用いるレジン・コートサンド(RCS)で世界シェアをリードしており、2018年には中国、インドに続いてメキシコでの事業もスタートしました。また、中国の南通と愛知のプラント間で生産最適化を図り、フェノール市況の原料価格に応じた最適購買、最適生産によってお客様のコスト低減にも貢献しています。

今後、さらに海外拠点を増やしてより親身なサービスの提供に努め、在庫戦略、物流戦略によるコスト面でのお客様への貢献も含めて、旭有機材ならではのグローバルなソリューション体制を構築していきます。



- 管材システム事業
- 樹脂事業
- 水処理・資源開発事業(ドリック株式会社)
- 販売店(管材)



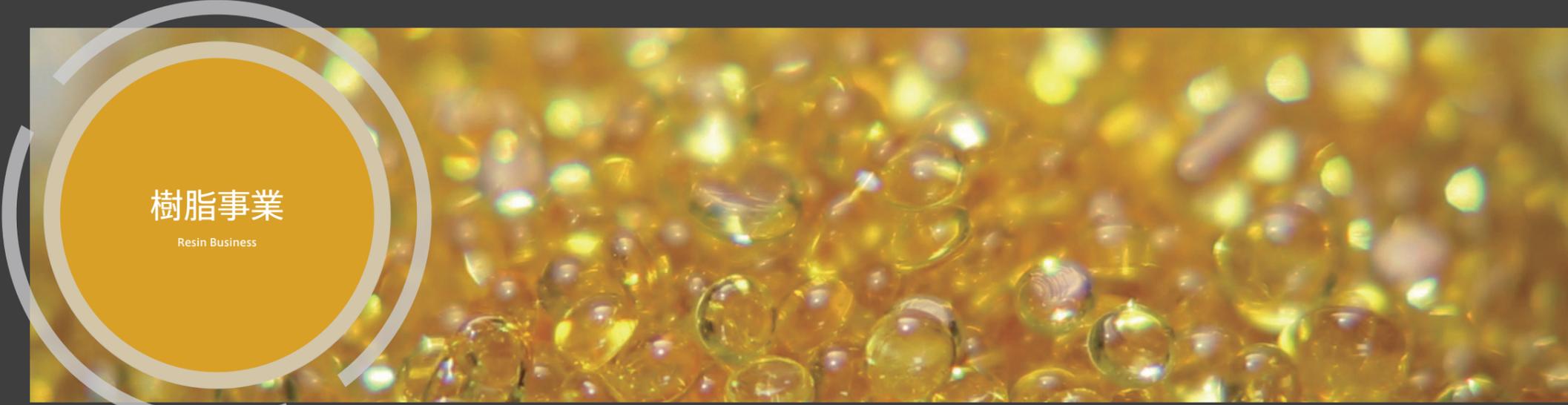
管材システム事業

Valve & Piping Systems Business

3つの基幹事業

私たちが世界に先駆けて開発した樹脂製バルブを中心に、さまざまな産業を支える「管材システム事業」、フェノール樹脂の可能性を追求し、事業領域を広げてきた「樹脂事業」、快適な生活環境づくりに貢献する水処理と、高度な地下探査技術・掘削技術で資源開発に取り組む「水処理・資源開発事業」。

いずれもトップクラスの技術力でお客様のニーズにお応えし、新たな価値を生み出して、さまざまな産業と人々の豊かな暮らしづくりに貢献しています。



樹脂事業

Resin Business



水処理・ 資源開発事業

Water Treatment &
Natural Resources Exploitation Business

管材システム事業

Valve & Piping Systems Business

旭有機材は1956年に工業用樹脂製バルブを世界で初めて製造し、以来製鉄・化学工場、水族館、半導体プラントなどに必要不可欠な製品として世界中でお使いいただき、技術開発とソリューションとで業界をリードしてまいりました。60年以上にわたり培われた安全・安心のシール技術や、信頼の流路設計技術、革新の樹脂合成技術をベースに経験豊富な営業と知識豊富な技術サポート、メンテナンスサービスでお客様のお困りごとの解決にあたります。

目立たないけれど最先端。

！ こんなところにも、旭有機材。



強い酸やアルカリを扱う化学工場向けに、厳しい条件下でもお使いいただける耐食仕様を用意しています。



酸で鉄を洗うラインなどでは、薬液の流路だけでなく、外部表面を含めた高い耐食性と動作信頼性が求められます。



地下資源の金属精錬工程において、強酸・強アルカリの薬液に対する高い耐食性が求められます。



殺菌処理に使う薬液ラインにおいて、高精度、高信頼性、高耐久性が求められます。



半導体・液晶パネル製造工程では、薬液に対する高い耐食性と精密な流量制御技術が求められます。



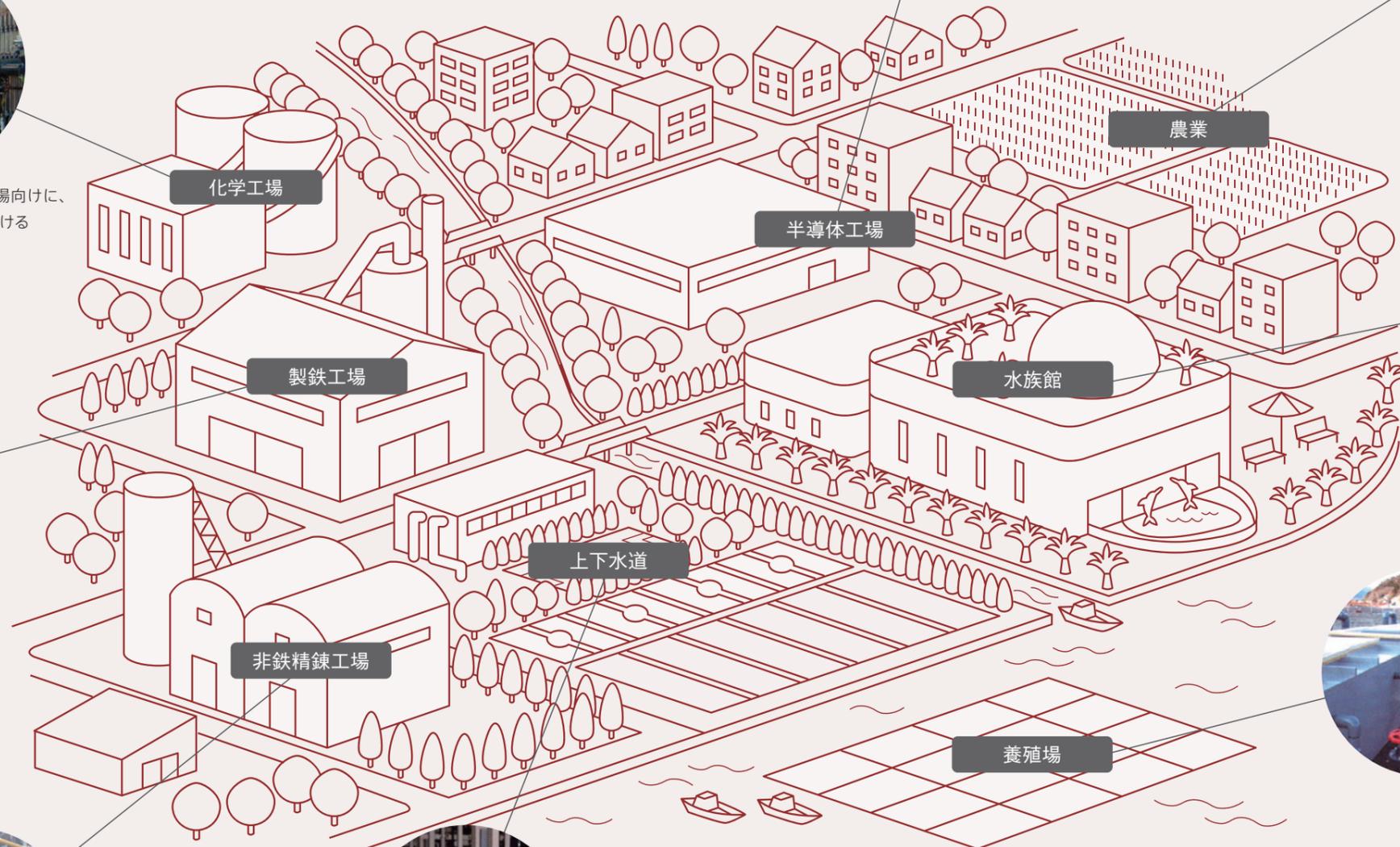
樹脂の高い耐久性、耐食性から、灌漑用のパイプや仕切弁、空気抜き弁、田畑への自動給水栓として利用されています。



魚や水生生物が嫌う金属イオンを漏れせず、海水で腐食しない樹脂製バルブとパイプ・継手は、水族館にとってなくてはならないアイテムです。



海水に対する耐食性、作動の長期安定性から、魚やカキなどの養殖設備に用いられています。



管材システム事業が誇る特長

安全・安心のシール技術

薬液漏出は、人命や環境などに重大な影響を及ぼします。当社製品には、Oリングや、パッキングなどさまざまなところに60年の経験が活かされています。



豊富な品揃えと在庫

お客様のご注文に速やかに対応すべく、当社のバルブは、JIS、DIN、ANSIなど多様な規格とサイズに対応した品揃えと、豊富な在庫を備えています。



信頼の流路設計技術

お客様との対話からさまざまな改良や新規開発が施されています。ゲートバルブでは、金属バルブにもなかったユニークな弁体を採用しました。



満足のソリューション

経験豊富な営業と知識豊富な技術サポートが、お客様のお困りごとの解決にあたります。配管設計・施工も専門部隊がお手伝いします。

ひとつ先の技術力。
樹脂性バルブの先駆者として、世界の産業を支えます。

製品展開

お客様の用途に応じてお選びいただけるよう、各種樹脂素材の製品や、高耐熱・高強度など高機能を付加した製品をご用意しております。また、長年培った流体制御技術により、精密に「流す」「止める」に加え、「混ぜる」新たな機能を付加した製品を世に出しています。

ASAHI AV 軽くて錆びずに長寿命、信頼性が高く、薬品にも強い。
すぐれた特長を兼ね備えた旭有機材独自の樹脂製配管材料です。

手動バルブ

バタフライバルブ、ボールバルブ、ダイヤフラムバルブなど、多様なサイズと規格に対応したラインナップを取り揃えています。



自動バルブ

軽量、コンパクトなアクチュエータ（駆動部）部と樹脂バルブ本体を一体化したバルブ。圧縮空気または電動で操作が可能です。



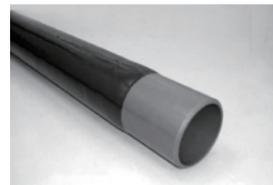
パイプ・継手



塩ビパイプ・継手
ビニールパイプ、有孔管などのパイプおよび各種継手です。



PPパイプ・継手
低温衝撃性、耐薬品性、耐熱性に優れたパイプ・継手です。



塩ビ・FRP複合パイプ
塩ビパイプや、PPパイプをFRPで補強し、耐熱性と強度を高めたパイプです。

副資材各種



パッキン、ボルト・ナット、サドル、AVゲージフランジ、隔膜式圧力計など副資材を各種揃えています。

Dymatrix™ 半導体・液晶パネル製造ライン向け小型精密バルブです。

小型精密バルブ

チューブを挟み込む（ピンチシール）構造により、固形粒子や異物の噛み込みに強いバルブです。



AVPV SERIES

ポンプの脈動などの圧力変動を抑制し、安定した流量制御を可能とする定圧弁です。



AVHPR SERIES

さらなる小型化・精密制御のニーズを捉え、ピンチバルブ・流量計・制御部を一体化したスラリー制御ユニットです。



FALCONICS™

サービス紹介

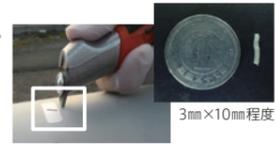
60年以上にわたる経験とビッグデータを強みに、各種メンテナンスサービスを用意しており、お使いいただいている配管材料の長寿命化に貢献しています。また、配管材料を用いた設計・施工部隊を社内にも備えることで、お客様のお困りごとの解決にあたります。

メンテナンスサービス

■紫外線劣化度診断

配管をサンプル採取し、更新時期を推測します。ラインを移動したままで、サンプルは配管の表面素材を薄く削るだけ。サンプル片受領後、約3週間で診断結果をご報告します。

- 診断手順
- 1 診断する配管を選定いただけます。
 - 2 旭有機材がサンプル採取します。
 - 3 旭有機材にて分析します。
 - 4 診断結果をご報告します。（サンプル片受領後、約3週間）



【対象配管】

- 塩ビ管 (U-PVC/VP,VU)
- 耐衝撃塩ビ管 (HI-PVC)
- 耐熱塩ビ管 (C-PVC)

■配管超音波診断

長年使用して劣化具合が気になる配管を取り外すことなく、パイプの肉厚やPVC+FRPパイプの二層管の層間剥離の有無などを診断し、数値化してレポートするサービスを提供しております。



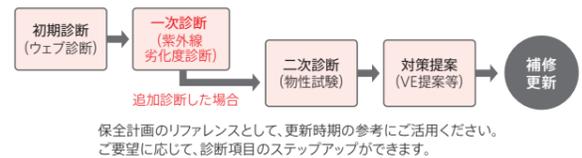
クロリン水による減肉 二層管の層間剥離 施工不良

- 診断手順
- 1 診断する配管を選定いただけます。
 - 2 旭有機材が現地で測定いたします。
 - 3 診断結果をご報告します。（サンプル片受領後、約3週間）

検査結果から、配管肉厚の減肉具合やU-PVC+FRPなどの二層管の層間剥離を検査し、劣化事例とともに健康状態を診断します。

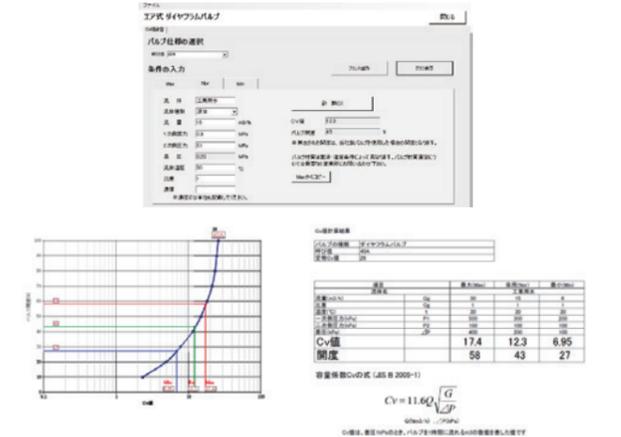


■紫外線劣化度診断・配管超音波診断の流れ



■バルブサイジングソフト

使いたいバルブを選んで諸条件を入力し計算キーを押すと、Cv値やバルブの開度がグラフ形式で表示されるサービスを提供しています。以下のサイトで利用者登録した後、専用ソフトのダウンロードが可能です。
<http://aoc-sp.asahi-yukizai.co.jp/signup/>



■デモトラ

カタログだけでは品質や機能まではわかりにくい。そんなお客様の声からASAHI AVのキャンペーンカー「デモトラ」が生まれました。実際に水を流した各種デモンストレーションの実施もあり、製品説明会や勉強会など、さまざまなシーンでご利用いただけます。



- 1 デモ配管を搭載。各種製品の機能を細かくチェックできます。
- 2 配管の耐圧試験を実演。樹脂配管の強度をお確かめください。
- 3 カットサンプルでバルブの構造を説明。分解組立て体験も実施。
- 4 PVC、PP配管の施工を実際に体験していただくことができます。
- 5 耐圧試験、ツール試験など、ご要望に合わせた試験を実施します。
- 6 バルブ、配管に関する相談会開催。日頃のお悩みをご相談ください。

エンジニアリングサービス

樹脂配管材料を熟知している優位性を活かし、さまざまな産業分野における配管設計から配管施工までトータルソリューションをお届けしています。



酸・アルカリに強いPPタンクも品揃えました。

樹脂事業

Resin Business

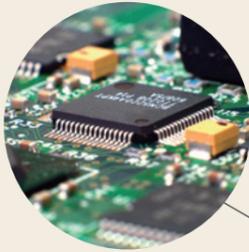
成形材料からスタートした樹脂事業は、独自に確立した高い評価技術をベースに、フェノール樹脂の重合・合成技術をコアテクノロジーとして、耐火物・タイヤなどの一般工業用分野、現在の中核を担う casting 分野、最先端の電子材料や現場発泡断熱材へと展開し、お客様のさまざまなご要望にお応えしています。特に casting 分野では、自動車産業において必要不可欠な casting 用樹脂とレジン・コートサンドの両方を製造する国内最大のメーカーであり、多様な casting 特性により細やかに対応しています。

半導体、液晶パネル、印刷版などの原材料として、旭有機材の電子材料用樹脂が使われています。

私たちの暮らしに身近な自動車のさまざまな部品の製造工程や、強度の向上、金属代替のための軽量化部品などに、旭有機材の樹脂が使われています。

目立たないけれど最先端。
こんなところにも、旭有機材。

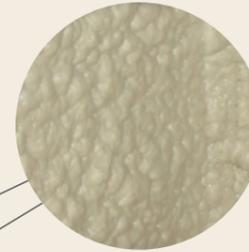
半導体



液晶パネル



断熱材

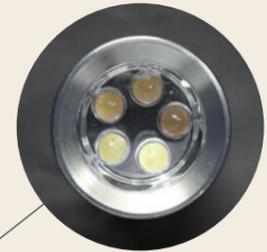


住宅の断熱材に旭有機材の発泡材料用樹脂が使われています。

足まわり



LED



トランスミッション



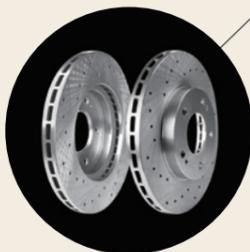
ブレーキパッド



エンジン



ディスクブレーキ

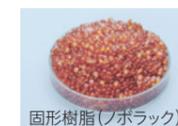
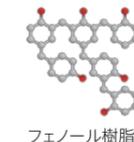


タイヤ



フェノール樹脂とは

原料のフェノールを重合させたもので、用途に応じて固形・液状の形態があります。耐熱性・強度に優れ、やかんの取っ手などの一般用途のほか、元来のフェノール樹脂特性に新たな特性を付与してさまざまな産業の先端分野に利用されています。



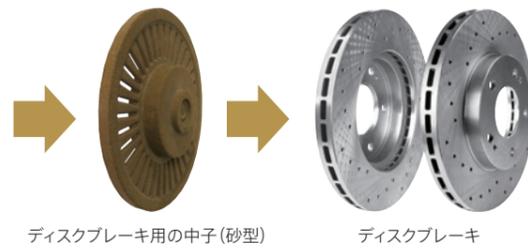
樹脂だけができること。
高度な技術で、その可能性を次々に広げていきます。

製品展開

casting分野で業界トップシェアを誇る樹脂事業では、フェノール樹脂の可能性を追求する中から数々の製品を生み出し、お客様のニーズにお応えしてきました。ここでは主要な5つの分野の製品についてご紹介します。

casting分野

レジン・コーテッドサンド (RCS)



ディスクブレーキ用の中子(砂型)

ディスクブレーキ

castingの製造過程で使われる、砂を粘結させた砂型は、天然砂や人工骨材に casting樹脂を被覆(コーティング)したレジン・コーテッドサンド(RCS)で作られます。RCSと casting樹脂を製造している当社は、両方の特性をコントロールし、お客様のニーズを高次元で実現することができます。



エンジンのカットモデル

精密な castingの製造プロセスでは砂型が使われます。その砂の粘結には、フェノール樹脂が使用されます。当社は、お客様の要求性能に応じ、高強度タイプ、低膨張タイプ、速硬化タイプ、低ヤニタイプ、低臭気タイプなどさまざまなプロセスに対応し、幅広く品揃えしています。

casting樹脂 (シェルモールドレジン)



工業用分野

フェノール樹脂は、良好な接着性能に加え、耐熱性や難燃性、耐久性、摩擦特性に優れた素材です。そうした特性を応用し、工業用樹脂の分野では、ブレーキ、クラッチなどの摩擦材、耐火レンガ、耐火建材、砥石、ゴム配合用など、多種多様な製品に用いられています。当社は、お客様のニーズにお応えするために、液状、粉末、固形の異なる樹脂形状をご用意しています。



固形樹脂(ノボラック)



液状樹脂(レゾール)



ブレーキパッド

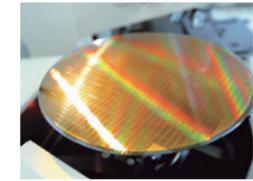
タイヤ

電子材料分野

半導体、液晶パネル、印刷版などの製造過程で使用されるフォトレジスト(感光性樹脂)には、原材料としてノボラック樹脂、フェノール誘導体が使われます。この分野では、金属含有量が少ないことが必須であり、当社では独自技術によりppb(10億分の1)以下まで低減可能です。愛知、中国の2拠点製造体制で、世界中へ電子材料用樹脂を供給しています。



クレゾールノボラック樹脂



シリコンウエハー



液晶



半導体

発泡材料分野

ポリウレタンフォームは、速やかに硬化する化学物質でありながら、配合処方や成形方法の工夫により特性を変えることができるため、生活のさまざまなところで使われています。当社では、長年にわたり断熱材用途を中心としたポリウレタンフォームの研究開発を行っており、2010年にノンフロンかつ高い断熱性能を有した「ゼロフロン®ER」を発売しました。また、当社のフェノール技術を活かして難燃性を向上させたポリウレタンフォーム開発や、ケイ酸ソーダを



2液硬化型ウレタンフォーム原液



吹付けの様子



ビル、マンション向け断熱材

主材とし、浸透性の高さを特長とするトンネル掘削時崩落防止用発泡固結材「AGSR®」を発売するなど、幅広い分野で私たちの製品が活躍しています。



固結材「AGSR®」

「AGSR®」注入の様子

成形材料分野

フェノール樹脂成形材料は、耐熱性、寸法安定性、電気絶縁性、機械的強度に優れています。高強度タイプは、金属部品の代替として自動車の軽量化に大きく貢献し、耐熱摺動タイプは、機械部品のオイルレス化などの環境負荷軽減に寄与しています。また、ジアリルフタレート樹脂成形材料は、高温、多湿下での電気特性に優れるため、電子部品用途に幅広く使われています。



自動車部品

水処理・ 資源開発事業

Water Treatment &
Natural Resources Exploitation Business

2013年9月に旭有機材グループの一員となった
ドリコ株式会社を主体とする水処理・資源開発事業は、
「価値ある水づくり」を追求し、人々の“いのちとくらし”に
水を通して関わってまいりました。

地下資源開発のパイオニアとして日本有数の温泉開発を手掛けた
実績をはじめ、クリーンエネルギーとして脚光を浴びる
地熱開発などの資源開発にも積極的に取り組みながら、
環境に優しい循環型社会の形成をめざしています。

目立たないけれど最先端。
こんなところにも、旭有機材。



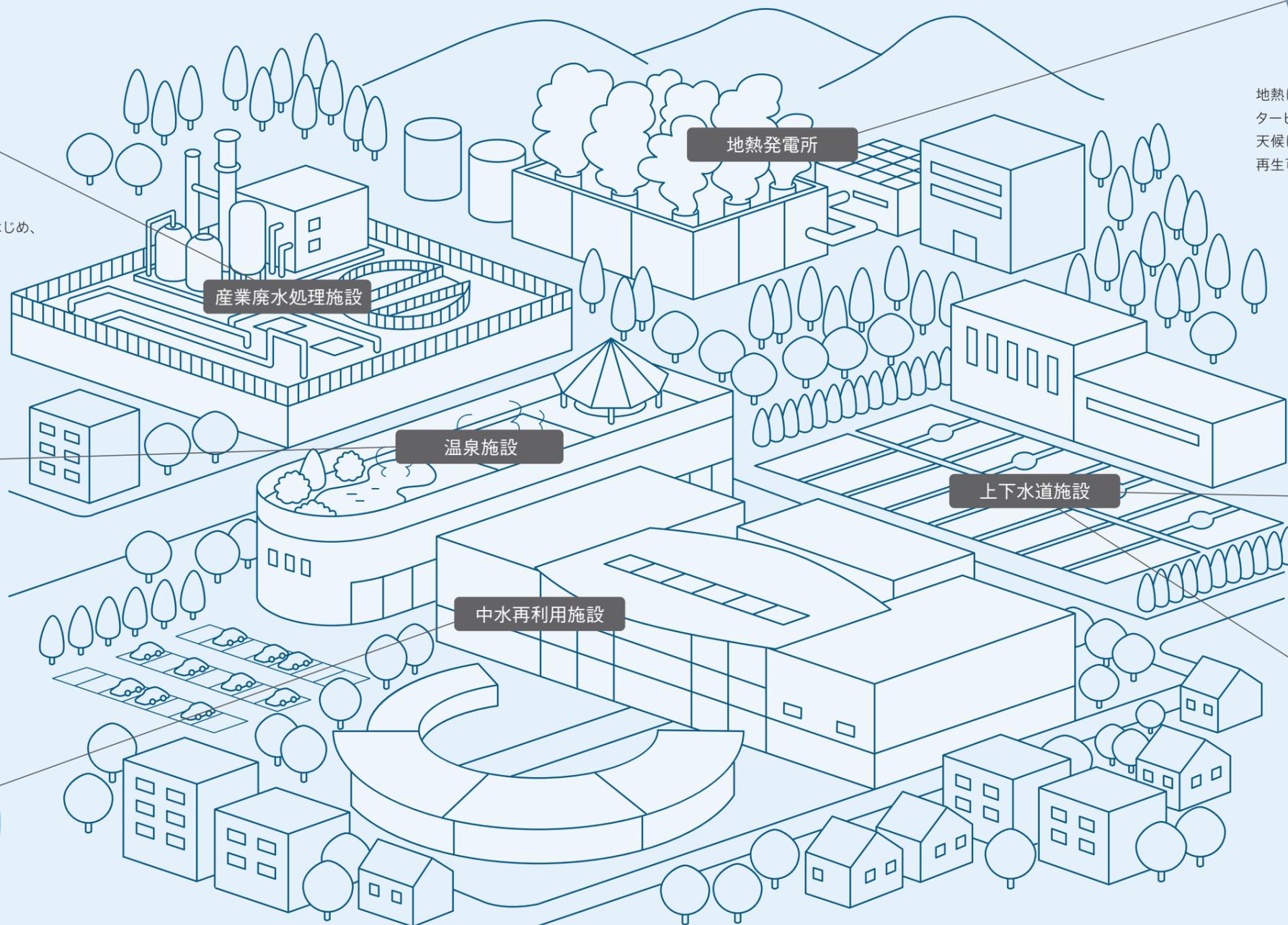
工場などでの産業用水や排水の処理をはじめ、
水に関するトータルエンジニアリングを
提供しています。



温泉源調査から掘削、給湯設備の設計施工、
排水処理、維持管理までトータルに
温泉開発を手掛けています。



ビルや商業施設で、一度使った水を
再利用する中水道システムで、
ドリコはトップシェアを有しています。



地熱によって熱せられた水蒸気で
タービンを回して発電する地熱発電。
天候に左右されない安定した
再生可能エネルギーとして期待されています。



上水道施設や下水道処理施設の設計・施工で、
快適な暮らしづくりに貢献しています。



循環型社会をめざして。
独自技術で人々の「いのちとくらし」に貢献します。

事業展開

60年以上にわたり社内で蓄積された水処理に関するノウハウと温泉や地熱発電などの資源開発技術。さらに手掛けた設備の永続的な維持管理を行うメンテナンス事業まで社内に備え、水処理に関する総合力で、お客様に高度なソリューションをお届けしてまいります。

資源開発事業



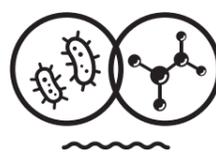
地熱発電開発や温泉開発など、さく井(さくせい)の分野で、国内有数の事業を展開しています。

水処理事業



ビルの排水を循環させる中水再利用施設を中心に、各種上下水道施設の設計・施工を行っています。

環境薬剤事業



水や中水処理の過程に必要な消臭剤や油脂分解処理剤などの薬剤を開発しています。

メンテナンス事業



設計・施工を手掛けた各種設備の維持管理サービスを社内に備えることで、お客様の設備を万全にサポートします。

資源開発事業



さく井・地熱開発

地質調査井、揚水井、温泉井、地熱蒸気井、天然ガス井、そして観測井の掘削など、ドリコ(株)は創業以来、さく井の分野において実績を積み重ねてまいりました。また地熱開発の分野では、再生可能エネルギーとして近年注目される「地熱発電」に利用される、高圧・高温の蒸気を供給するための調査井、生産井、還元井の掘削を中心に事業を展開しています。



地熱井の蒸気噴出

地熱井の掘削現場

温泉開発

温泉の調査、掘削から利活用システムの設計・施工、温泉排水処理、維持管理までドリコ(株)がトータルプロデュースしています。温泉の掘削本数は300本以上、掘削総延長は350km以上で日本一の実績を誇ります。また温泉配管の敷設長は300kmを超え、地域の活性化に貢献しています。



温泉湧出の様子



レジャー・リゾート施設
東京ドームシティ
ラクア内 スパラクア
(東京都文京区)

水処理事業



上水道施設

水質やお客様のニーズに応じ、最適な上水道施設のご提案から、設計・施工・維持管理までトータルサービスを提供しています。



中水再利用施設

都市商業ビルから出る排水、また工場から出る廃水を回収・処理し再利用するシステムの研究・開発により、水資源の有効活用および水道料金の削減に貢献しています。



下水道施設

公共下水道施設の分野においても幅広い施工実績を有し、処理効率の良さ、維持管理の容易さに重点をおいた設計・施工技術により、快適な生活環境づくりに貢献しています。



産業用水・産業廃水処理施設

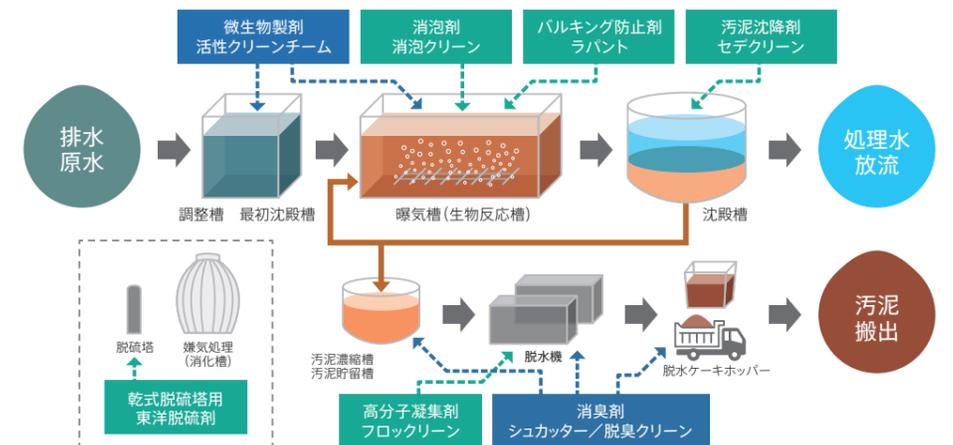
海水・かん水淡水化プラントや、超純水、電子・製薬・食品工業等の製造用水など、用途に応じて最適な水質を提供できるシステムを経済性にも配慮しながらご提案しています。



環境薬剤事業



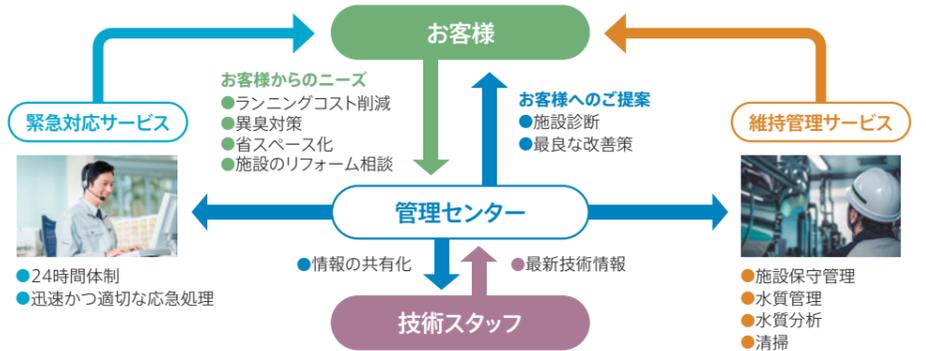
排水処理向けに独自開発した微生物配合の水処理改善薬剤に加え、硫化水素・メチルメルカプタンのほか、さまざまな臭いに対応する消臭剤、汚泥沈降不良・発泡対策などの問題解決薬剤を取り扱っています。



メンテナンス事業



中水プラント、浄化槽、産業廃水施設、温泉施設など、水に関する施策において、水質・各設備機器診断を行い、最適な運転方法で設備の維持管理にあたっています。



沿革

金属材料を有機材料に変えることから始まった旭有機材は、樹脂の可能性を追求しつづけ、3つの分野でトップクラスの技術を提供するリーディングカンパニーへと成長してきました。



2010

大型ビル向け発泡断熱材、ゼロフロン® ERの販売を開始

2013

ドリコ(株)の株式を取得し、水処理・資源開発事業を開始

2012

時間差式ミキサーの販売を開始

2001

2事業部制を採用

2000

Dymatrix™シリーズの製造を開始

樹脂事業

管材システム事業



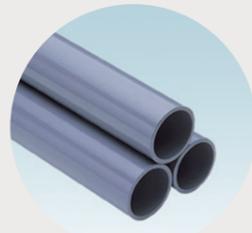
レジン・コーテッドサンド(RCS)の製造を開始

1963



1969

バタフライバルブの製造を開始



1974

北方町(現延岡市)で塩ビパイプの製造を開始



1965

ボールバルブの製造を開始



1959

ダイヤフラムバルブの製造を開始



1954

シェルモールド用レジン(鋳物用樹脂)の製造を開始

1956

ストップバルブの製造を開始
プラスチック成形としては世界初となる樹脂製バルブ「ASAHI AV」バルブの誕生



1946

成形材料「AVライト」の製造を開始



1945

資本金200万円をもって、日室化学工業株式会社(現在の旭化成)の子会社として航空機用強化木の製造を目的とする日室航材工業株式会社を設立



1945 ■ 資本金200万円をもって、日室化学工業株式会社(現在の旭化成)の子会社として航空機用強化木の製造を目的とする日室航材工業株式会社を設立
■ 商号を旭ベニア工業株式会社と改め、フェノール樹脂成形材料、合成樹脂成形品ならびに合板の製造販売を目的とする事業に転換

1946 ■ 成形材料の製造を開始
1951 ■ 現在地に延岡工場を建設
1954 ■ シェルモールド用レジン(鋳物用樹脂)の製造を開始
1955 ■ 建設業者登録(管工事業)
1956 ■ ストップバルブの製造を開始
1959 ■ ダイヤフラムバルブの製造を開始
1960 ■ 株式を東京証券取引所に店頭公開
1961 ■ 株式を東京証券取引所市場第2部に上場
1963 ■ レジン・コーテッドサンド(RCS)の製造を開始
1965 ■ ボールバルブの製造を開始
1968 ■ 愛知工場を建設し、シェルモールド用レジンおよびレジン・コーテッドサンド(RCS)の製造を開始
1969 ■ バタフライバルブの製造を開始
1974 ■ 株式を東京証券取引所市場第1部に上場
■ 北方町(現延岡市)で塩ビパイプの製造を開始
1979 ■ ドイツに欧州連絡事務所を開設
1983 ■ 無償交付により資本金が現在の50億10万円となる
1989 ■ 延岡本社省力化工場を建設
1991 ■ 延岡本社総合研究所を建設
■ 広島工場を建設し、レジン・コーテッドサンド(RCS)の製造を開始
1996 ■ シンガポール事務所を開設
■ 栃木工場を建設し、レジン・コーテッドサンド(RCS)の製造を開始
1998 ■ 栃木工場内で塩ビパイプの製造開始
1999 ■ ASAHI/AMERICA, INC.の全株式を取得(連結子会社)
2000 ■ 天下(あもり)工場(延岡市天下町)を建設し、エンジニアリング部門を延岡工場内より移転
■ Dymatrix™シリーズの製造を開始

2001 ■ 延岡本社と東京本社の2本社制とし、かつ管材システム事業部、樹脂事業部の2事業部制を採用
2002 ■ 上海事務所を開設
■ AOCアセンブル(株)を設立(連結子会社)
2004 ■ 愛知研究棟を建設
2005 ■ 当社技術を供与したタイのRCSメーカーの現地工場竣工
■ 旭有機材商貿(上海)有限公司を設立(連結子会社)
2006 ■ 旭有機材樹脂(南通)有限公司を設立(連結子会社)
2008 ■ シンガポール事務所を閉鎖し、タイ事務所を開設
■ 旭有機材閥門設備(上海)有限公司を設立(連結子会社)
2010 ■ 大型ビル向け発泡断熱材、ゼロフロン®ERの販売を開始
2011 ■ 木造住宅向け発泡断熱材、ゼロフロンフィット®の販売を開始
■ Falconics™の販売を開始
■ 当社の完全子会社である旭有機販売(株)と中部旭有機販売(株)が合併(連結子会社)
2012 ■ ASAHI MODI MATERIALS PRIVATE LIMITEDを設立
■ 鋳造時に発生する臭気の低減を実現したヘキサパス®の販売を開始
■ 時間差式ミキサーの販売を開始
2013 ■ 当社の完全子会社である旭有機販売(株)と旭有機販売西日本(株)が合併し、旭有機材商事(株)と商号を変更(連結子会社)
■ 旭有機材樹脂(南通)有限公司が電子材料用フェノール樹脂工場を新設
■ 旭有機材樹脂(南通)有限公司が鋳造用レジン工場を増設
■ ドリコ(株)の全株式を取得(連結子会社)
2014 ■ 水処理・資源開発事業部を新設し、3事業部制とする
■ ASAHI KOREA CO., LTDを設立(連結子会社)
■ ASAHI AV EUROPE GmbHを設立(連結子会社)
2016 ■ ASAHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.を設立(連結子会社)
■ 商号を旭有機材株式会社に改称
■ ASAHI YUKIZAI MEXICO S.A.de C.V.を設立(連結子会社)
2017 ■ 大和興産(株)の株式を取得(連結子会社)
2018 ■ 旭エー・ブイ産業(株)の株式を取得(連結子会社)
■ 当社の完全子会社である旭有機材商事(株)と旭エー・ブイ産業(株)が合併し、商号をアビトップ(株)に改称

■事業所のご案内

管材システム事業部	札幌営業所	〒060-0807 北海道札幌市北区北7条西四丁目17番地1 KDX札幌北口ビル8階 TEL:011-746-7710 FAX:011-746-7714
	仙台営業所	〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二丁目12番30号 日本生命仙台勾当台西ビル2階 TEL:022-213-3911 FAX:022-213-3912
	東京営業所	〒110-0005 東京都台東区上野3丁目24番6号 上野フロンティアタワー21階 TEL:03-5826-8829 FAX:03-3834-7592
	名古屋営業所	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1丁目4-16 KDX名古屋日銀前ビル4階 TEL:052-222-8533 FAX:052-222-8233
	北陸営業所	〒939-8216 富山県富山市黒瀬北町2丁目13番1 イムズビル3階 TEL:076-425-2531 FAX:076-422-3465
	大阪営業所	〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町4丁目5番9号 井門瓦町ビル7階 TEL:06-4707-1080 FAX:06-4707-1088
	広島営業所	〒732-0827 広島県広島市南区稲荷町2-16 広島稲荷町第一生命ビル9階 TEL:082-506-0195 FAX:082-264-3313
福岡営業所	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-13 博多駅南Rビル8階 TEL:092-413-8700 FAX:092-413-8722	

樹脂事業部	素形材営業部 東日本グループ	〒324-0037 栃木県大田原市上石上字東山1840番地 TEL:0287-29-1881 FAX:0287-29-2828
	素形材営業部 中日本グループ	〒480-0105 愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字新津26番地4 TEL:0587-92-9111 FAX:0587-92-9110
	素形材営業部 西日本グループ	〒732-0827 広島県広島市南区稲荷町2-16 広島稲荷町第一生命ビル9階 TEL:082-568-5503 FAX:082-263-5105
	発泡材料営業部 東日本営業グループ・市場開発グループ	〒110-0005 東京都台東区上野3丁目24番6号 上野フロンティアタワー21階 TEL:03-5826-8833 FAX:03-3834-7592
	発泡材料営業部 西日本営業グループ	〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町4丁目5番9号 井門瓦町ビル7階 TEL:06-4707-0365 FAX:06-4707-0366
	電子材料営業部・成形材料営業グループ	〒110-0005 東京都台東区上野3丁目24番6号 上野フロンティアタワー21階 TEL:03-5826-8834 FAX:03-3834-7592

工場	延岡製造所	〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地 TEL:0982-35-9374 FAX:0982-35-9353
	愛知工場	〒480-0105 愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字新津26番地4 TEL:0587-93-1030 FAX:0587-93-8850
	栃木工場	〒324-0037 栃木県大田原市上石上字東山1840番地 (R C S)TEL:0287-29-1881 FAX:0287-29-1711 (パイプ)TEL:0287-29-1879 FAX:0287-29-1729
	広島工場	〒727-0004 広島県庄原市新庄町字王子5088番61号 TEL:0824-72-8011 FAX:0824-72-8003
	天下テクノセンター	〒882-0071 宮崎県延岡市天下町1176番地1 TEL:0982-23-5800 FAX:0982-23-5810

国内関連会社	アビトップ株式会社	〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番20号 松村ビル4階 TEL:03-6284-2591 FAX:03-6284-2592
	ドリコ株式会社	〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目13番10号 日本橋サンライズビルディング3階 TEL:03-6262-1421 FAX:03-6262-1431
	大和興産株式会社	〒703-8282 岡山県岡山市中区平井7丁目19番18号 TEL:086-277-5111 FAX:086-277-5118

海外現地法人・ 関連会社	ASAHI YUKIZAI CORPORATION Bangkok Representative office	323 United Center Building, Unit 3004B, 30th Floor, Silom Road, Silom, Bangrak, Bangkok 10500 THAILAND TEL:+66-0-2-631-1100 FAX:+66-0-2-631-1103
	ASAHI/AMERICA,INC	655 Andover, St.Lawrence, MA 01843 USA TEL:+1-781-321-5409 FAX:+1-978-685-3010
	旭有機材商貿(上海)有限公司 (Asahi Organic Chemicals Trading(Shanghai) Co., Ltd.)	Rm 405, East Tower, Sun Plaza NO.88 Xianxia Road, Changning District, Shanghai, China 200336 TEL:+86-21-6278-7862 FAX:+86-21-6278-7892
	旭有機材閥門設備(上海)有限公司 (ASAHI AV VALVE (SHANGHAI)CO.,LTD.)	No.18, Shanghai Malu Fengdeng Industry City, 615 Fengdeng Road, Malu Town, Jiading District, Shanghai 201818, PRC TEL:+86-21-6139-2600 FAX:+86-21-6139-2606
	旭有機材樹脂(南通)有限公司 (Asahi Organic Chemicals (Nantong) Co., Ltd.)	No.21 Tong Wang Road, Nantong ETDZ, Jiangsu, China 226017 TEL:+86-513-8359-2400 FAX:+86-513-8359-3400
	ASAHI AV Europe GmbH	Kaiser-Friedrich-Promenade 61 D-61348 Bad Homburg Germany TEL:+49-6172-9175-0 FAX:+49-6172-9175-25
	ASAHI MODI MATERIALS PRIVATE LIMITED	802, 8th Floor, MATRIX, Near Divya Bhaskar Press, Corporate Road, Pralhad Nagar, Ahmedabad - 380015, Gujarat, India TEL:+91-79-40081200
	ASAHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.	207 Woodlands Avenue 9, #06-55, Singapore 738958 TEL:+65-6755-8033 FAX:+65-6754-7033
	ASAHI KOREA CO.,LTD	#805-D Digitalempire office, 16, Deogyong-daero 1556beon-gil, Yeongtong-dong, Yeongtong-gu, Suwon-si, Gyeonggi-do, Korea TEL:+82-31-203-2050 FAX:+82-31-203-2880
	ASAHI YUKIZAI MEXICO S.A. de C.V.	Lote 25, Manzana 2, Carretera PANAMERICANA Sur, Parque Industrial FINSA Aguascalientes Cond.,Aguascalientes, Mexico. CP 20393.

旭有機材グループ 「基本理念」

私たち、旭有機材グループは、
「挑む・創る・変える」の改革精神で
新たな価値を創造・提供し、
人々の豊かなくらしに貢献します。

旭有機材グループ 「経営理念」

「人が主役です」

人を大切にし、働きがいのある会社づくりをめざします。

「お客様の信頼が命です」

お客様、取引先、株主、地域に満足していただける商品・サービスと適切な情報を提供し、信頼を高め、高収益の会社をめざします。

「技術がキラリと光ります」

独自の技術で常に新しい分野に挑戦し、スピーディにイノベティブな商品開発をめざします。

「世界に挑戦します」

国際社会に通用する商品開発力とマーケティング戦略により、グローバルな事業展開をめざします。

「安全衛生・環境保全是使命です」

安全衛生活動を積極的に推進するとともに、環境に優しい商品の開発と、環境に配慮した生産をめざします。

「法と社会規範を守り、社会と共に歩みます」

倫理性の高い企業活動と、良き企業市民をめざします。

■会社概要

商号:旭有機材株式会社
 英文社名:ASAHI YUKIZAI CORPORATION
 代表取締役社長:中野 賀津也
 設立:1945年3月12日
 資本金:50億10万円
 従業員数:1,355名(2018年3月期・連結)
 本社所在地:東京本社/東京都台東区上野3-24-6 上野フロンティアタワー21階
 延岡本社/宮崎県延岡市中の瀬町2-5955